

## 卒業生代表の言葉

本日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。

ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。私たちはそのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を57名揃って巣立つはずでした。

前日の11日、一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、10数時間後の卒業式に思いを馳せていた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名づけられる天変地異が起こるとも知らずに……。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりません。

時計の針は14時46分を指したままです。でも、時は確実に流れています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしていようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導ありがとうございました。先生方がいかに私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支援をいただきありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩いていく姿を見守っててください。必ず、良き社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当にありがとうございました。

平成23年3月22日

第64回卒業生代表

梶原 裕太